



# 桐生ロータリークラブ週報

2008年

国際ロータリー第2840地区 2008-2009年度 国際ロータリーのテーマ



## Make Dreams Real

R.I 会長 李 東 建 (D. K. Lee)

善意というものがないなら  
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。  
職業は金儲けのためでしかなく、  
社会奉仕というも施しにすぎず、  
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前原 勝樹

会長 疋田 博之 幹事 松島 宏明

クラブ会報・広報委員会 大友 一之・竹内 康雄・木村 滋洸・肥塚 俊成

12月22日号

### 第2675回例会

(12月8日(月) 第2例会)

- |               |                        |
|---------------|------------------------|
| 1. 点 鐘        | 7. 幹事報告                |
| 2. ロータリーソング斉唱 | 8. 委員会報告               |
| 3. 来訪者紹介      | 9. 卓 話 「新会員卓話」 山崎 克彦 君 |
| 4. ガバナー補佐挨拶   | 「米山奨学制度について」 石島 久司 君   |
| 5. 出席100%表彰   | 10. 点 鐘                |
| 6. 会長の時間      |                        |

#### ようこそビジター

〈群馬第2分区(A)ガバナー補佐〉 町田 裕一 君

#### ガバナー補佐挨拶



群馬第2分区(A)  
ガバナー補佐  
町田 裕一 君

本日は伝統ある桐生RCを訪問させて頂き、光栄に存じます。ガバナー補佐要覧によりますと、担当クラブ訪問は少なくとも4半期に一度、つまり年4回はすることとあり、本日は第3回目の訪問です。

私の役目はその名の通り、ガバナーのお手伝いで、その一つに各クラブを訪問し、ロータリー活動の基本である親睦と素晴らしい奉仕活動の実情を肌で感じながら、ガバナーに報告することです。

その意味で事前にアンケート調査をお願い致し

ました。5RCから貴重なご返事を頂き、ご協力心から感謝しております。

本年6月1日と10月1日現在の会員数の比較では、5クラブで増加したクラブはなく、3クラブで減少し、11名が減少しております。ただこれは年度変わりの時期を含めた5ヶ月という短期間の統計ですので、これを以て一喜一憂すべきではないと存じております。

例会出席率は80-90%の間にあり、1クラブのみが減少傾向にあると答えております。退会の前兆に出席率の低下ありとも言われているので、原因の究明が求められます。

CLPは4RCが実施しております。2クラブが問題点を挙げていますが、RIの提示した新しいクラブ運営の方式は実施の日も浅く、各クラブが試行錯誤の中から独自の方式を生み出すとすれば素晴らしいことと思います。

昨年度の当分区のRI財団と米山奨学基金への寄付状況が示されております。良好な結果が示され

るべく日々教習内容の研鑽をおこなっております。

群馬県の平均20年1月～10月までの死者数71人。事故件数16,752件発生しており、一時間に約56件の事故が発生しています。

桐生市は死者数2人。事故発生件数740件となっていて人口10万人当たりの順位は38市町村中ワースト19位となっています。

まとまりのない話に終始してしまいましたが、以上で私の新入会員卓話を終わらせていただきましたと思います。ご清聴ありがとうございました。



### 「米山奨学会について」

石島 久司 君

本日の卓話は米山奨学会についてお話したいと思えます。最初に基本的なお話ですが、まず米山奨学会の概要と目的についてお話し、最後に本年度の活動状況一についてお話しさせていただきます。米山奨学事業は、日本最初のロータリー・クラブの創立に貢献した実業家米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。米山奨学事業の記念の称号を付した米山梅吉氏(1868-1946)についてお話ししたいと思います。米山氏は、幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。16歳の時、静岡県から上京し、働きながら勉学に励みました。20歳で米国へ渡り、ベルモント・アカデミー(カリフォルニア州)ウエスレアン大学(オハイオ州)シラキユース大学(ニューヨーク州)で8年間の苦学の留学生生活を送りました。帰国後、文筆家を志して勝海舟に師事しますが、友人の薦めで三井銀行に入社し常務取締役となり、その後、三井信託株式会社を創立し取締役社長に就任しました。信託業法が制定されると信託会社を設立して、新分野を開拓し、その目的を“社会への貢献”とするなど、今日でいうフィランソロピー(Philanthropy)の基盤を作りました。晩年は財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。また、子どもの教育のために、はる夫人と共に私財を投じて小学校を創立しました。“何事も人々からしてほしいと望むことは人々にもその通りせよ”これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。“他人への思いやりと助け合い”の精神を身もって行いつつ、そのことについて多くを語らなかった陰徳の人でした。次に設立の経緯ですが、1952年に東京ロータリー・クラブで「月に煙草を一箱節約して」をスローガンに始められたこの事業は、やがて日本の全クラ

ブの共同事業に発展し、各会員より年額600円の寄付をいただくことが各地区大会の決議として採決されました。そして1967年、文部省(当時)の認可を受け、財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。米山奨学会とは在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間の奨学団体です。目的としては、将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。優秀とは一番目に学業に対する熱意や優秀性。この中の学業とは、学問に対する研究の目的・目標を明確にし、研鑽(けんさん)を重ねてその成果をあげる努力をする。二番目に異文化理解ですが、これは異なる言語・文化・習慣などを理解する努力をする事です。三番目に人間関係における円滑なコミュニケーションを築き、自己の確立と共に他者を受入れる柔軟な姿勢をもつ、コミュニケーションなどへの意欲や能力に優れている点が含まれます。そして、ロータリー米山奨学生は、ロータリー・クラブを通して日本の文化、習慣などに触れ、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人となることが期待されます。また、米山奨学制度の特徴として、奨学金による経済的な支援だけでなく、米山奨学生は世話クラブの例会に月に一度出席し、ロータリー会員と積極的に交流して国際交流・相互理解を深めるとともに、ロータリーの奉仕の心を学ぶ世話クラブと奨学生1人に対し、世話クラブのロータリアンの中から1人がカウンセラーとなり、奨学生の個人的ケアにあたるカウンセラー制度による心の通った支援があります。

次に活動報告ですが、2008年度の奨学生の人数は813人です。国別では、中国382人、韓国115人、台湾54人、ベトナム53人、モンゴル19人、バングラデシュ19人、スリランカ19人、その他152人です。今年度、初めて採用された国はクウェート、アイルランド、リトアニア、セルビアがあります。また、寄付金の状況ですが、10月までの寄付金は、前年同期と比べて2.2%減、約1,180万円の減少となりました。普通寄付金が0.1%減、特別寄付金が3.7%減と、7カ月ぶりに前年同期比減となりました。今月の寄付累計額5億2千万円は、2006年度以降3カ年の中で一番少ない金額です。非常に厳しい経済状況ですが今後ともご協力をお願いいたします。

### \* お知らせ \*

#### 【次回例会予告】

- ・12月29日(月) 休会
- ・1月5日(月) 休会
- ・1月12日(月) 休会
- ・1月19日(月) 新年初例会(ミニコンサート)